

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900352
法人名	社会福祉法人長生会
事業所名	グループホームまつぎきの宿 ユニット名 筑前
所在地	福岡県小郡市松崎字福泉塚476-1
自己評価作成日	平成25年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川1-7-6		
訪問調査日	平成25年6月27日	評価結果確定日	平成25年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者、家族を通じ地域の方が気軽に遊びに来たり、相談しやすい様に地域に開かれた施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松崎地区は宿場町として賑わった歴史もあり、周囲の町並みには歴史的建造物も多く残る。ホームは地域の歴史を反映した造りとなっており、各居室には庇が設けられ、旅籠の屋号が掛けられている。法人代表者の地元でもあるため、地域との根付いた関係性の中にあり、日常的な交流や伝統行事の共催、運営推進会議での率直な意見交換等を通じて、地域拠点としての存在も高まっている。法人として多様な福祉事業を展開しており、職員育成や委員会活動、災害対策等にて連携を図り、サービス向上に向けたスケールメリットを発揮している。日々の暮らしは、広い庭での食事やお茶を楽しんだり、近所の御地蔵様までの散歩は日課となっている。また、地域交流や季節感を採り入れた支援にも積極的に取り組み、心身の活性化に結び付けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく健康で明るく楽しい生活が出来るように」との理念を掲げ、実現に向け日々努力している。毎朝業務前に理念を唱和し共有している。	開設時の職員が意見を出し合い、独自の理念が作成されている。今年度は、理念のもとに「個人の目標」を掲げ、半年ごとに実践状況を確認していく予定としており、理念の共有をチームケアの実践へと結びつけていこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の文化や桜祭りに参加したり、ホームにも地域の方々が童謡の集い、天神祭りなどに参加して頂いている。	自治会に加入し、相互の行事参加等を通じて、交流を積み重ねている。また、地域の伝統行事である天神まつりは、地域と母体法人との共催により復活しており、その根付いた関係性がうかがえる。日常の馴染みの関係性の中で、花を頂いたり、採りたての野菜が届けられることも多い。事業所便りは、市や警察署、消防署にも届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一度の運営推進会議に参加して頂き、利用者様の日々の様子を理解して頂いている。また毎月、日常の生活の様子を地域や家族に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告をした後に今後の支援について話し合っている。アドバイスを頂き、より良い支援につなげる様努力している。	運営推進会議は、家族、区長、民生委員、老人会、市担当者、法人理事長等の参加を得て、定期開催されている。災害対策や身体拘束、高齢者虐待防止等についても、率直な意見交換が行われていることが議事録から確認できる。質疑応答の時間を設け、出された意見は運営への反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援の中でホームでの対応が難しい問題が生じた時は、市へ相談し解決に向けて一緒に検討している。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。また、時には役所に出向き、不明な点の問い合わせや困難事例への対応について協議を行っており、顔の見える関係性の中で、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例ミーティングやフロアミーティングで、勉強会も行なっている。	法人として、身体拘束廃止委員会が設置されている。暮らしの中で想定されるリスクや身体拘束による弊害については、運営推進会議の中でも取り上げられ、関係者との共有認識を図っている。管理者、職員は、行動の理由や原因の理解に努め、見守り体制の工夫等により、身体拘束を行わないケアに向けて取り組んでいる。	

福岡県 まつぎの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会を行ない、日頃からの言葉遣いや態度に気を付けている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ない、各階に資料を配布している。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、毎月、成年後見人を務める方との連携や情報共有を図り、その過程を通じて学ぶ場面も多い。資料を整備し、必要時等には情報提供を行っている。研修計画の中に位置付け、継続して理解を深めていく意向である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとにご本人及びご家族に十分な説明を行ない、理解と納得を得たうえで契約、解除を行なっている。また改定等有る時は文書を作成し、説明行ない納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様の意見を会話から聞き取ったり、伺う様に努めている。また匿名で意見を言ってもらえるように意見箱を設置している。	事業所行事である「宿まつり」の際には時間を設け、家族との個別懇談会を実施している。意見や要望、不安等の把握に努め、情報共有を図りながら、運営への反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティング、月例ミーティングを行ない意見交換できる時間を設けている。	毎月、ユニットごとのフロア会議やホーム全体のミーティング、主任会議が開催され、職員の意見や要望を収集し、検討を行っている。事前に議題を提示し、積極的な発言を促している。勤務時間帯の変更等が実際に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況を把握し職員と管理者が意見交換を容易にできるように職場環境を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢に拘らずに、個々の能力に目を向けている。採用後も職員全員でバックアップできる体制、環境を作っている。パート職員も有給が取れる体制である。	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行われていない。新規採用時や異動の際は担当者が配置され、OJTが実施されている。福利厚生の実施や、内部研修を持ち回りで担当する等、働きやすさや能力を発揮する場面を確保している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員は法人研修、外部研修に参加して学んでもらっている。事業所内でも勉強会を行ないホームの理念を元に安心した生活が出来る様に努力している。	内外の研修に参加し、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、外部研修に積極的に参加している。研修後は研修をまとめてもらい勉強会にて発表している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや法人内の小規模多機能との交流を図り質の向上を図っている。また小郡三井地区介護保険研究会に出席し同業者との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集行ない本人との会話、面談を通じて不安に思っている事、要望などを聞き取り、信頼関係を築けるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話、面談により家族の思いを受け止め、信頼関係を作っていく面会に来られた時は必ず話しかけ近況報告を行い、次回も面会に来る喜びが出るような会話を行なっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、必要としているサービスを見極めて提供しているが、対応できない時は他のサービスを紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事、洗濯たたみ、テーブル拭きなどは一緒に行いまた、職員間で入居者の情報を共有し家族のように寄り添うケアができるように努めて提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力により定期受診、受診、外出、外泊等のご家族にお願いしている。また家族との会話で本人が安心できるような共通の言葉を聞き取り声掛けを行なっている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所、地域のスーパー、かかりつけ医等に出かけている。また知人に出会う場面もある。近隣の友人が気軽に来れる雰囲気作りにも努めている。	日々の仏壇へのお供えを継続できるよう、必要な支援を行ったり、農業を営んでいた方には、プランターでの稲作等の指導を頂いている。家族や友人の来訪する機会も多く、また、地域行事への参加を通じて、これまでの関係性の継続を支援している。	

福岡県 まつぎの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事、レクリエーションに参加して頂きその際に座る場所などを考え利用者同士の交流も図れる様に孤立しないように支援している。もし孤立されていたら職員が個別に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が長期入院の場合は一旦退所となるが退院の目途がいたら優先的に入居できるようにしている。また退去された方は次の生活の場面で安心して生活できるように情報を提供する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と毎日接する中で、一人ひとりの思いや要望を実現に向けて常に職員間で情報を共有し話し合っている。	散歩の途中や入浴時等、個別の時間に寄り添う中で、何気ない言葉や表情の変化を大切に捉え、思いや意向の把握に努めている。ミーティング等にて共有を図り、本人本位の検討に努めている。現在、生活歴やライフスタイルなどの情報をあらためて収集し、個別ケアの充実に活かせるよう取り組んでいる段階であり、今後の実践が期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話を多く持ち会話の中から情報を聞き取る様にし、職員間で情報の共有ができるように記録に取る様にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日業務入る前に個人個人の記録に目を通す。また朝の申し送り、夕方の申し送りで詳しく口頭でもリーダー、夜勤者が申し送る。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング等で計画担当者、居室係りが主体となり話し合う。またご家族、主治医の意見も考慮した介護計画を作成している。	フロアミーティングや担当者会議を通じて意見を集約し、本人、家族の思いや希望が反映された、個別性ある介護計画が作成されている。毎月、各担当者によるモニタリング・評価が実施されており、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記録し職員間で情報を共有し話し合い支援に生かせるようにしている。		

福岡県 まつぎの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望がある場合はご家族の宿泊をして頂き、食事の提供を行っている。近隣の認知症の方が徘徊され、安全確保の為見守りを行い必要な時にケアマネに連絡している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	童謡の集いや教育機関からの慰問等で地域との協働を行ない皆様楽しみにされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と、ご家族の希望を一番に考え馴染み病院を継続している。本人、ご家族希望が有れば事業所の協力機関の病院も利用して頂いている。そのため緊急時はすぐに対応できる。	家族との連携を図りながら、これまでのかかりつけ医との関係性を継続している。看護日誌が整備され、職員や医師との情報共有を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護職員が入居者の健康チェックを行っている。職員と看護師が話し、変化がある入居者などを伝え情報を共有するようにしている。また看護師が近所に住んでいる為緊急時すぐに対応できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り合い本人の現状を常に把握できるようにし、再入居した時の対応を職員で話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変する可能性があること、重度化、終末期に向けた方針を家族に説明をしている。家族、主治医の意見を聞きながら本人の状態にあった支援方法を常に検討している。	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。また、状況の変化に伴い、家族や医師、職員との話し合いを重ね、本人本位のより良い支援について、方針の共有に努めている。これまでに看取りを支援した経緯もあり、法人内の他施設との連携も含め、安心して暮らし続けられるよう支援を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変、事故発生時の対応マニュアルを作成し職員全員が熟読するようにしている、研修に行き勉強会を開いている。		

福岡県 まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の立会いの下、昼想定、夜間想定 の避難訓練を行っている。近隣の方も参加して 頂き協力を呼び掛けている。	消防署の立ち会いも含む年2回の避難訓練を、昼夜 を想定して実施している。緊急連絡網には法人内の 連携を組み入れ、非常時に備えている。運営推進会 議では、事業所の現状を説明し、課題や連携につ いて意見交換を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を行ない、尊厳の意識付けと 言葉遣いに気を付けている。	日常の言葉使いや対応については、事例を基に、勉 強会やミーティングにて再確認を行い、職員の意識 を高めている。排泄ケアや入浴時の対応については 特に留意し、プライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出したり、自己決定が出来 る様な、言葉掛けを働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や趣味を考慮し、本人にとって快適な 日になる様、配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	自分で選べる方は、自分で着て頂く。ちぐはぐ な、着方をしている方は声掛けを行ない居室に て、着替えて頂く様にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の下膳・配膳・盛り付け、野菜の下ごしら え等を手伝って頂いている。本人の好き嫌いに も、配慮している。	法人の栄養士によるバランス等に配慮された献立を もとに、各ユニットで調理されている。月に1、2回、 「お楽しみ行事」として、ホットプレートを用いた食事 を楽しんだり、鰻やとんかつの出前も好評を得てお り、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。忘年会は、 入居者、職員が鍋を囲み、賑やかに開催されてい る。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し、確保出来る様に している。		

福岡県 まつぎの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた声掛け、介助を行なっている。義歯洗浄剤やマウスウォッシュを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が保てる方は、トイレにて排泄して頂いている。夜間のトイレの声掛けをや誘導を行なっている。	各居室にトイレが設置されている。排泄チェック表による状況やパターンの把握、また、排泄用品の検討を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外にも、冷水や牛乳、乳酸菌入りの乳製品を飲用して頂いている。適度な運動や散歩も、無理なく行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂を毎日沸かしており、一人一人に合わせた声掛けを行ない、入浴して頂いている。入浴拒否が見られる時は、翌日又は時間を置いて、再度声を掛けている。	毎日入浴準備を行っており、希望や状況、体調等に応じて柔軟に対応している。日常的に入浴剤を使用し、季節に応じた菖蒲湯や柚子湯等も実施している。拒否のある場合には、時間やタイミング、対応等を工夫し、無理強いとならないように支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を設けたり、必要な方はメドマー（フットマッサージ）を使用している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しているため、全職員が理解している。変化があれば、主治医に連絡している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者と一緒にお菓子を作ったりして、手伝いをされている。		

福岡県 まつぎの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近隣にドライブに行ったり、地域の方から、お花や野菜を頂いたりする事もある。	日常的に散歩に出かけており、近隣の御地藏様までのコースは定番となっている。季節の花見に出かけたり、芝生が敷き詰められた庭先で、お茶を楽しむ機会もある。少しずつ重度化へと移行する中で、個別の外出支援にも取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布は事務所にて預かっている。買い物希望時は、財布を本人に渡している。家族にも報告している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見守りにて、共用電話を使用し、お話されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器を使用し、温度、湿度を考慮している。天窓や天井ファン、除湿、冷暖房を使い分けて、心地よく過ごされている。季節感のある飾りをホール内に飾っている。	ゆとりあるリビングは、開口部も大きくとられ、開放的な空間となっている。窓からは、芝生が敷き詰められた広い庭や畑の様子を眺めることができる。各所にソファや椅子、また、和室スペースも設けられており、くつろぎの場所として活用されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳や共用ソファ、廊下に椅子を設置し好きな所で過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族をお願いをし、長年使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂き、居室にて使用している。	居室入口には、庇やポストが設けられ、室内にも、トイレやクローゼットが設置されており、個人の空間であることを印象付ける。炬燵やテーブルセット、椅子等が持ち込まれ、家族との水入らずで過ごす時間を大切にしている。生活感ある居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れる様に、フロア内に手すりを設置している。浴槽や脱衣場、共用トイレも安全に使用出来る様に工夫してある。転倒の危険性が、ある方は布団や押し車に鈴を付けたり、センサーマットを設置している。		